

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500184		
法人名	合資会社		
事業所名	三重福祉会 グループホームなごみ苑		
所在地	津市豊ヶ丘2丁目4-5		
自己評価作成日	R3年1月26日	評価結果市町提出日	令和3年3月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2490500184-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和3年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活空間と日常支援、日々に必要な生活行動をスタッフと家族関係に近い支援を行っている。また、地域の自治体に所属し、地域活動やイベントへの参加をしている。職員に看護師が所属しており、知識の共有や、指導ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームなごみ苑は、津市北部の亀山市と境を接する辺りに開発された大型住宅団地の中に開設された事業所で今年6月で満11年を迎える。住宅地の中にあるということで開設当初から自治会に入会しており、様々な行事にも参加し地域の中でも一定の地歩を築いている。現在の入居者は1ユニット8人で少人数ゆえの家族的な事業所であり、建物も従来からの民家を改装したもので、家庭的な雰囲気がよく見て取れる。職員は看護師である管理者とケアマネージャーのもとよく結束し、現在の新型コロナ禍においても「利用者本位の生活と和みある支援」の理念通り、寄り添う支援に努力を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念の共有。なごみ独自の理念の見直し作成、共有。「利用者様本位の生活と和みある支援」	昨年6月これまでの理念を見直すこととし、管理者始め職員全員で考えて「利用者本位の生活と和みある支援」という分かり易い言葉に変更した。介護の基本を示す言葉として職員もこれをよく理解しており、利用者家族にも好評である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に所属しており、夏祭りや公園の掃除に参加。幼稚園の行事の参加。	昨年のステップアップ項目で、認知症予防等で地域貢献を期待するというものであったが、新型コロナの影響で殆どの活動ができなかった。それでも従来の自治会活動などには積極的に参加しており、コロナ終息後の取り組みに期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や見学希望の方へのホームの開放。関連機関への説明と来苑。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の開催。議題を挙げての相談、外部での取り組み工夫などの共有に努めている。	偶数月による隔月の開催を予定していたが、新型コロナの影響で僅か1回のみ開催であった。代替措置として報告書等を各関係者に送付して意見聞き取りを行っているが、この休止の期間中に利用者家族の参加を促すなどこれまでの課題にも取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	津市の担当者様に定期開催の運営推進委員会への参加のお願いをしておき意見の交換をしている。必要に応じてケアマネが市に出向き連携をとっている。	介護保険の関係は市役所本庁の担当課に聞き取ることとしており、直接出向いたり電話などで緊密に連携が取れている。最近では新型コロナの予防策や運用、また同様に運営推進会議のあり方などを相談・協議している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は「0」です。スタッフ会議による注意喚起をしている。また研修資料等を用いて全員で共有している。	職員研修は月1回の会議に併せて行っており、拘束に対する正しい理解を含め防止に対する意識は高い。現在、運営法人による指針を基に事業所独自の拘束防止マニュアルを検討しており3月中には完成の予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディア等であがった内容も日々の申し送りで通達し全員で周知する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加。スタッフ間で共有。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとっていただき、説明、納得のもと了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はしているが利用がないため、積極的に会話をし、意見や提案を受けている。	最も意見聴取のし易いのが面会時であるが、遠方の家族が多いため電話での聞き取り機会を増やしているのが現状である。また年3回程度ではあるが「なごみ苑だより」を発刊しており、苑内の様々な情報と併せ職員によるコメントを掲載するなど家族の想いにも寄り添える支援を目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務開始前の申し送り、スタッフ会議での意見交換。業務日誌や連絡ノートの活用にて、全員が周知できるようにしている。	定例的には月1回の職員会議において意見聞取りを行うこととしているが、毎朝の引き継ぎ時や現場において必要があればその都度意見交換を行うなどスピード感を持った対応をしている。また職員もこれをよく理解しており、個々の意識により事業所をより良くしようとする努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の意見を取り入れながら現場に活かし、スタッフの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部から受講案内を挙げてもらっており、受講する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内でのイベントに参加。職員同士の交流が取れるよう機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様にも施設の見学をしていただく。施設見学が困難な場合は、実務調査を行い、不安を取り除くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望を密に聞き取り、不安や要望をスタッフ間で話し合い、サービスにつながるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネと連携し、支援に必要なことは何かをスタッフで判断し、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす姿勢で、利用者様の残存能力を活かし、支援するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活状況を年3回の苑たよりにて、お知らせしている。また、面会時に様子をご報告。疎遠気味にならないように、面会の無い家族様には、電話での連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方との面会・外出をしている。また、家族様とも面会・外出もしている。	利用者の殆どが県外など遠方の出身であり、事業所を中心とした近隣に馴染みと云える場所は少ないが、利用者個々人のアルバムを使ったり、誰もが知る昔の出来事ニュースなどを話題にして支援に繋げている。また直接的には利用者手持の携帯電話や事業所の電話を使い家族や知人との会話を楽しめるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活活動の中で、共同で行い、自然と関りが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様本人の状況と、家族様の希望や要望に考慮し、相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の担当を配置。希望や意向をスタッフ会議にて話し合っている。	介護度の状況により意思の疎通が難しい利用者もいるが、とにかく話しかけることを第一にその思いの把握に努めている。食事中やその後の休憩時、午前午後のティータイム、入浴時や就寝前など話を聞けるタイミングは随所であり、利用者の状況や様子を見て支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族様から聴き取りをし、継続していけるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務前の申し送りにて、情報共有し、重要な内容についてはカードックスを活用。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議での個別処遇の検討、3ヶ月に1回のモニタリング評価にて、プランの見直し検討をしている。	入居時にケアマネージャーと管理者が面接を行い3カ月の仮計画を作成する。その後ケアマネージャーによるモニタリングを経て、職員全員の意見や看護師等の専門的な意見を加えながら本計画に移行している。家族には計画ごとに確認を行い、正に関係者全員での計画作りとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの記録や体調表、カードックスを活用し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携病院があり、急変時には連絡がとれ対応することができる。同グループ内での移動も可能。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域保育園行事への参加、利用出張サービスの活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者様が協力医のもと、往診を月2回受けている。他院への受診が必要な場合、職員による受診も行っている。	昨年、閉院により協力医が変更になったが機能的には引き継がれ、月2回の訪問診療が実施されている。また殆どの利用者が新しい協力医をかかりつけ医としており、信頼関係に基づく医療提供が行われている。なお他科診療には職員が付き添うことで適切な医療支援を実現している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、2名の看護師がおり、情報の共有や相談ができる。また、往診時にも相談や指示を仰げる体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護情報書を作成し、情報の共有ができるようにしている。また、治療経過中の情報も病院と連絡をとったり、面会で得るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様へご報告、緊急時の対応など早い段階で報告相談、更に毎日の申し送りにて緊急時の対応をスタッフに伝え周知させている。また、協力医への報告もしており万が一の連絡も確保している。	昨年までの3年間是对処すべき事例はなかったが、職員の入れ替わりやベテラン職員の再確認の意味も含め、看取りに係るマニュアル等の見直し作業を行っているところである。なお利用者家族とは入居の際に充分話し合っているが、状況変化にはその都度意思確認を行うなど細やかな支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が看護師であり、急変時の対応の教育指示を密にしている。参考文書や模擬練習をし指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中・夜間想定避難訓練を全員が参加のもと実施している。	災害訓練については事業所独自で年2回、自治会主催でも年2回実施されており、利用者共々参加している。また同じく自治会の主催で年数回シェイクアウト訓練も行われており、防災意識は高く同時に地域との協力関係も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に狭い範囲のかかわりになるため、十分に配慮しお声掛けをしている。	利用者それぞれの思いとそれに伴う行動を理解し、常に見守りを忘れずに、その人らしい生活が保てる支援を心掛けている。特に様々な場面での声掛けでは利用者を目線を合せ、どうすることが最良かを常に自問しながら対応に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えをまずしっかりと聞き、否定の無いように対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様にあった係や、掃除洗濯、食器洗いなどの一緒に支援をしている。レクリエーションではいくつかの興味を持ってもらえるような支援と実施をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に季節や過度なことがない限り、個人の好みに合わせて支援している。二か月に一回訪問理容をしております好みのカットを受けていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはん・汁物は職員で調理、副食はレトルトを使用。利用者様と盛り付けを楽しみ準備。下膳、洗い物も利用者様同士で助け合いもある。	ご飯と汁物以外は食材会社から調理済みのレトルト食品を購入しており、事業所の事情もあるが何よりも安全性や栄養バランスを考慮してのことである。利用者は盛り付け等の準備や下膳などの片付けを手伝い、食べるのみではない食事全体を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックをしております全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立できる利用者様にはお声かけで促す。支援の必要な方は見守り、マウスケアスポンジを使用し支援している。便秘時はマッサージ、看護師による摘便。ウォシュレットによる刺激をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立5名・時間的にお声掛け必要2名・全介助1名。それぞれの尿回数のチェック、時間介助の方は表を用いて全員が把握支援できるようにしている。	排泄は多くの利用者が自立するなか、2名が声掛け、1名が全介助の状況である。利用者個々の排泄パターンを全職員で共有し細かくチェックすることで何れもトイレでの排泄が可能となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	コロナの影響もあり、コグニサイズなどの身体を動かせるレクの実施、必要時排便間隔を見ての便秘薬の使用をルチン化し使用できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調などを十分に観察・入浴、入浴が困難な時は清拭をしている。ゆず湯・菖蒲湯など季節も感じられるよう取り入れている。	入浴は一般家庭用の個浴で、特に困難な利用者もなく全員が湯船に浸かれている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯など楽しめる工夫もしているが、更に支援できることはないか、例えば入浴回数を増やしたり時間の制約を外せないかなどを検討しているところである。	利用者にとって入浴は最も寛げるものであり、入居前は機会、回数とも今より多かったのではないかと考える。事業所としての人員体制や設備など物理的な制約はあると思われるが、利用者の意向に沿える回数や機会の見直しに期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	限られて空間の中、自席だけでなくソファや長椅子、読書音楽も出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、薬包の日付・名前の確認を利用者様に確認していただき、必要時説明、手のひらにのせ飲み込みの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の時間を大切に、支援として制作などの提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴天時には玄関先のベンチで過ごしたり、苑庭の作業もしている。家族様にも協力を得て、外出している。季節ごとの花見・紅葉狩り・初詣も実施している。	これまで頻回に行っていた季節の花見や近くの観光施設への外出は、新型コロナの影響で例年より見合わせている。しかしその分事業所の周りへの買い物やお使い、また畑の草取りや洗濯干しなど日常生活における外出に重点を置き、積極的な支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様で管理のできる方には所持していただいている。外出支援として選ぶこと・支払うことの見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には電話の使用、個人のケータイ電話の使用をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な環境整備、清潔を保つよう実施している。また、換気や日光浴の実施、季節感では雪の風景を楽しむ。	事業所の構造として玄関からリビング、リビングから風呂、便所等が直結しており、換気や温度管理、臭いなどに特に気を配っている。また天井・壁・廊下などは一般家庭用の仕様で落ち着いた雰囲気となっており、利用者はレクリエーションや体操、職員とのお喋りなど日常生活を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の考慮と空間づくりをしており、政策の展示や行事の写真を展示している。会話がとれるようスタッフが補助するよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人に合わせて、ベッドの配置や棚の配置、飾りをしていただいている。故人の位牌や、遺影の場所など特別な空間作りをしている。	各部屋ともクローゼット・出窓などが設置されているが、画一的ではなく配置がそれぞれであることからベッド等の位置も一定ではなく、より個性的な部屋の造りとなっている。思い思いの調度を持ち込みながら入居前の生活が窺える空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に応じた居室の配置、名前や折り紙による目印を使用し迷いによる不安がないようしている。		